

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己肯定感を向上させ、地域に価値ある学校づくりを推進する」というコンセプトは素晴らしいと思います。 ・目標は高い方が良いですが、高すぎると途中で挫折してしまうので、達成感を感じられる適切な設定だと思います。 ・健やかな体作りの「ワンステップタイムを充実させる」の項目は、生徒にとって達成感が感じにくく、成果もすぐには表れないので内容を変えたほうがよいと思います。例えば、小学校では「新体力テストで全国平均を上回る項目を80%以上にする。(中間の目標)」 「第1回テストで全国平均を下回った項目について第2回テストを実施し、全国平均を上回る生徒の割合を80%以上にする。(最終の目標)」と設定しています。 ・保護者アンケートの評価基準を「4: そう思う 3: ややそう思う 2: あまりそう思わない 1: 思わない (以上は小学校の評価基準)」などに表現を変えられたらよいと思います。 ・小学校では、家庭に任せるべき項目は学校評価から除外するようにしました。例えば、「早寝・早起き・朝ご飯」「テレビ・スマホ・ゲームの時間」などです。啓発・指導はしますが学校では対処しきれず、評価の伸びも期待できないのでそうしています。 ・現状に対して適切に設定されている。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大変厳しく自己評価され、次の目標を設定や取組につなげられています。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査において15教科のうち14教科が県、国平均を上回り、さらに各種コンクール検定等に積極的に参加し、一人当たり受賞数が6を超えるなど、驚くべき成果を挙げている。 ・読書、年間15冊以上だと読まない月も出てくるので“月1冊以上、年間15冊以上”の方が良いかと思います。 ・生徒一人一人の成果や課題を共有され、組織で取り組んでおられることが素晴らしいと思います。 ・家庭学習の時間の少ない生徒の親に対しては、もっと責任を持ってもらうべき。先生方の努力には限界がある。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の良さを生かし、実にきめ細かな指導がなされており、さらに課題の分析も的確だと思います。 ・詳しく評価されています。数値で分析結果が表示されているので分かりやすい。全体的に厳しく適切です。 ・評価基準を厳しく設定され、適切に評価されています。 ・細かく分析されている。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己肯定感を高め、思いやりの心をもった生徒を育てる」ために「ありがとうカード」カードを交換するという取組みは、互いが認め合い、個々の良い部分を把握させる点で見事な試みです。 ・少人数の良さを最大限利用して、改善への努力が感じられます。目に見える工夫もあり、今後がとても楽しみです。 ・PDCAサイクルに基づき改善策を立てられています。 ・今後の改善方策が適切かどうかは、結果が出てみないと本当の評価は分かりません。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK全校短歌大会で学校大賞を受賞、まことにおめでとうございます。長年にわたる小中一貫教育の賜物ですね。心から誇らしく思います。これからも郷土愛に満ちた生徒を育てて下さい。 ・全体的に細かく評価されています。分かりやすく良かったです。 ・中学生の数値としては、いずれも大変高いものだと思います。先生方の取組の成果だと思います。 ・大変丁寧な分析と取組がなされています。今後も布野小と情報を共有し歩みをそろえながら、9年間の学びを創り上げ、児童生徒に力をつけていきましょう。 ・校内の取組としては、大変評価できますが、問題のある生徒や親に対しては、学校側としてできることの限界や、一般論を説明すべき。穏便に済ませようとする中途半端になったり何も解決しなかったりする事もある。